教区報 発刊第600号

写真の教区報は、真柱様、前真柱様お入込、歷代教区長就任退任時と創刊号、100 号、お道の風景など

北海道教区報

第 600 号
発行所
天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南８条西 11 丁目
電話 011（561）1148
FAX 011（561）1190
E-mail:tenrikyo.hk@gmail.com
ホームページ
https://tenrikyohk.com

教祖140年祭

すべて喜び
すべておたすけ
北海道教区

教祖140年祭 北海道教区スローガン

教区報 発刊600号に！

北海道教区報は、山本正義第十代教区長が在任中の昭和43年7月31日に創刊され、56年を経た今号で600号となりました。

「北海道教区報」の題字は、椿昌雄第九代教区長が教区報発刊のために、準備されていた文字であり、現在もそのまま使わせていただいています。

創刊号からを振り返ると当初の紙面は白黒文字のみで、写真は未掲載でありました。第42号からは写真を掲載するようになり、昭和52年には、100号発刊。近年の真柱様、前真柱様お入込みの際には、カラー紙面を導入致し、令和４年よりは、すべてカラーでの刊行となっています。

この度は、歷代教区長をはじめ、教区報にゆかりの先生方に600号を記念し寄稿いただきました。

—特別寄稿—

第十五代 教区長 西垣定洋

教区報600号発刊は幸甚の至りであります。昭和43年の第1号創刊より、長年の歷史を重ね紆余曲折を経て、その時々の多くの編集委員、関係者の真実によって、今日600号を達成され誠におめでとうございます。

教区報の使命は、道内各地にお道の動き、教区の動きを紙面にて知らせる事でありますが、私の教区長在任中は途中から、新型コロナウイルス感染により一時休刊の余儀なき状況に至りました。教区報だけではなく、全ての活動も一時ストップしてしまいました。世界中が大変厳しい状況でありましたが、その中でも、絶やすことのないよう少しずつ動きを進めさせて頂いたのでありました。中でも大きな出来事としましては、三代真柱様のお出直しであります。前年には、教祖130年祭に向かう教会長の決起に、三代真柱様のご臨席を仰ぎ、公式には、北海道が最後の御巡教となりました。

ようぼく決起実動大会には、真柱様のご臨席を、婦人会委員部長講習会には、婦人会長様、緑化ひのきしん30周年には、大亮様のお入込みを賜りまして、皆感激をもって心勇んで御用につとめさせて頂きました。

さらには、東日本大震災、富良野豪雨、胆振東部地震など大きな災害が起こり、一手一つの心で復興に力を注ぎました。

令和２年立教183年９月２日は、コロナ禍ではありましたが、第100回教区記念祭を勤めさせて頂き、重き歷史を心に刻み初代支庁長様を始め、歷代の先人、先輩に御礼をさせて頂いた次第であります。こうして振りかえりますと、改めて諸活動の動きに合わせた事々を思い起こし、この先もその都度お示し下さいます、お言葉を心として旬に遅れる事のなきよう活発に動きを進めさせて頂きたいものと存じます。

これまでの編集委員の努力の結集により、ここに600号という偉業を達成されました事を心よりお祝い申し上げます。

北海道教区のホームページ〈https://tenrikyohk.com〉で教区報がご覧頂けます

第十四代 教区長 藤田文雄

教区報600号おめでとうございます！奥村教区長ほか皆様のご健闘を讃え益々おたすけ活動が進展することを願っています。

お久しぶりです。年齢のせいかお世話になった皆様のお顔を思い出すことが増えました。

昭和48年春、私は、おぢば、上級兵神大教会から地元に戻り同年6月に結婚、7月に夕張大教会陞級。その後すぐ部内教会長への出願に教務支庁にやって来ました。すると國松實教区青年会委員長、木岡昭前委員長、山本正義教区長がおられ、私に次期教区青年会委員長をやれと言われます。お断りしましたが、その年、雪の降る頃には押し切られてしまいました。24歳の若輩が2期6年間、仲間に鍛えられ助けられ、今ふり返るとありがたい日々でした。

それから25年後の平成10年5月本部月次祭の朝、表統領室長様から電話で「飯降表統領が決断をした。今日の祭典後真柱様から内命書が渡される」とのこと。私は腰を抜かし心臓が止まるような驚きで声も出ません。実は1ケ月前にお断りしていたのです。私だけでなく数人の先生もお断りしたようでしたが。かくして6月26日正式任命。おぢばの事務所に主事先生方にお集まり頂き1期目が始まりました。今から26年前。私49歳の事件でした。

それからの年月、支えて下さった先輩先生たち。ここに改めてお礼を申し上げたく思います。

教区や支部は言論の場、遠慮なく語り合える場であるべき。教区組織は「陽気ぐらし世界へと向かう布教伝道のための組織」。教務はもちろん大事。しかし布教中心の教務支庁でありたい、などと少し背伸びして語ったものでした。教区は「学び、助け合い、広める場」であるとも教えて頂きました。そうして1期、2期、3期、4期、5期。「北から風を起こせ！」との飯降表統領の言葉に押され、まるで全教の期待が北海道に向けられているかのように思い込んで活動をしていました。

御本部では新たな教化育成への動きが起こり、北海道でも学習の場を作らねばと意気込み、教本作成に注力する中、有珠山噴火が勃発。災救隊出動。皆様のご奮闘。活動への影響大。その中、想定外のおうた演奏会の決定。準備への大きな動き。そしてまさ奥様のお出直しにも拘らず前真柱様がご出演くださるキタラでの昼夜公演。演奏者も聴衆も涙溢れる大成功。そこに向かう交流、結束は予想を遥かに超え、おかげで全教初の基礎講座開講へとつながったと思います。他には結婚相談、教会おたすけ力を支援するための顧問弁護士依頼。ダイヤル北海道の刊行。バリアフリー化エレベーター設置。教祖120年祭の年に始まった教区音楽祭。満州、樺太慰霊の旅、東日本大震災災救隊。大地を翔ける伝道者たちの刊行。ほか各会、各部門が活発な活動を展開してくださいました。

今、おかげさまで教会のおたすけ活動の傍ら、刑務所教誨師や国道美化ボランティア、某奉仕団体や岩見沢市某法人立保育園理事長などの日々、人に出会って元気をもらっています。どこかでお会いした時にはぜひ声をかけてください。

教区元主事 札幌分教会前々会長 木岡昭

北海道教区報が600号を迎えるという。実に50年の長きに亘る。50年前に発刊される時には、私も末席ながら参画させて頂いたように思う。当時としては、ここまで継続される確信などなかったように思ったが、続いているという事はその後の皆様の真実な努力の賜物である。私は教区の御用を辞した後も、依頼されるままに長年未筆ながらも教理随想のようなものを執筆させて頂いた。本当につたない随想で皆様に失礼を致したが、私自身は多いに信仰の本筋につい

（3Pへ続く）

（↙2Pの続き）

て学ばせて頂いて、かえって感謝の念で一ッパイであった。加えて、同じ地域に住む教友の方々の実状や思いを教区報の中で感得させて頂いて心勇ませて頂いたものであった。

私は昨年米寿を迎えた。同時に私達夫婦は結婚60年も迎え終えた。そのお祝いの意味も含めて、現在シンガポールに住む四女家族から来るようにすすめられて、今度航空券が送られてきた。早速去る5月に10日間の日程で行かせて頂いた。

シンガポールとの縁は最初に本部のシンガポール出張所に行かせて頂いた事から始まって、娘達の事にも展開して今日に至っている。今度行かせて頂いて改めて信仰生活の勇み喜びを得るためには、自分だけではなく頼り合い助け合う人がいることがどんなにか大切な事だと思った。それは数少ない信仰者の住む外国では計り知れない事だと感じた。

発展、発達してきた現代社会は、人々が信頼し合う事がなくなりつつある。それは制度とシステムが極度に進み、それに頼り切った社会であるからである。社会とは人と人とのつながりであり、その本来性は頼り合い、助け合う心の社会である。

その心のつながりに大切な事は、同じ所に住む人同志が同じ思いに心を寄せて助け合う事である。それは信仰の成人の上で多いに役立ち、勇み心を与えてくれるものである。

教区報はその一端を荷ってくれている。

私は教区報を読ませて頂いて、それぞれの地域、立場の人々の心に思いをはせ、共感しつつ勉強させて頂いてきたものである。

最後に感謝を申し上げ、ますますの御活躍をお祈り申し上げたい。

教区報前編集長・教区元主事

幌都分教会前会長
藤田好道

この度、教区報600号を迎えるとのこと、創刊してから50年以上になりますね。おめでとうございます。その中で私が携わったのは、藤田教区長（当時）が立教161年6月に就任してからであります。

藤田教区長は、まず教務支庁から道内へ発信する広報の充実が急務と、広い道内の隅々まで、おぢばからの声を伝えること、各支部内の出来事、ようぼくの動きを発信し、教区管内の思い、動きを一つにすることと動き出しました。

そして編集長を教区青年会時代から共に活動してきた空知支部の井谷孝男氏にお願いし、私も関わるようになりました。

何もわからないままパソコンも段々勉強し、編集作業に当たるようになりました。井谷編集長のころは本当に楽をさせて頂きましたが、私にお鉢が回ってからは、印刷所に入れるまで毎月生みの苦しみでした。スタッフには文を書いたり記事を書くことに堪能な旭川支部の藤﨑実氏。パソコンを使って打ち込み割り付け等仕上げ入稿するのに札幌東支部の奥村功氏にお手伝い頂きました。

藤田教区長の5期15年、西垣教区長の3期9年をほぼつとめさせて頂きました。西垣教区長時代には、小樽支部の中村圭一氏が記事や文章を、同じく小樽支部の藤井吉久氏がパソコンを使って打ち込み、割り付け等お務め頂きました。

そして西垣教区長の3期目には新型コロナウィルス感染拡大もあり、教区支部や教会でも人の集まりが出来なくなり、教区報の発刊も難しく、精神的に厳しい日が続きました…。

以前、教区の教務に通っておられた千恵広支部の武藤先生に教区報についてお尋ねしたら私が始めたんだよと…。以来たくさんの方々が関わって今日があると存じます。

そして、教区報を内から信仰面で深く支えて下さった先生方。富ケ岡学園史の連載。札幌分教会・木岡昭先生は「心の道」と題して、本輪西分教会・岡崎重夫先生は「おたすけよもやま話し」の題で長くご執筆下さっていました。藤田教区長になってリニューアルしましたが、教区報にお道のエッセンスは欠かせないと、再度、木岡先生に、「お道の信仰をわかりやすく平易な言葉で」なんて身勝手な注文を付けて執筆をお願いしたところ、「お道の風景」という題名を下さり、いつも決まった文字数の中で、しかも心を打つ内容に感銘いたしておりました。先生には本当にいつもたすけて頂きました。

現在、教区報は奥村教区長の下、これまでも関ってこられた札幌東支部の現編集長、奥村功氏が中心となって発刊頂いています。まことにご苦労様です。これからも教区の勇む元になるよう期待します。

全国教誨師大会

5月29日、30日の両日、札幌パークホテルで『第40回全国教誨師大会・第60回札幌矯正管区教誨師研修札幌大会』が、大会テーマ「アップデートする教誨」、サブテーマ「移り行く時代と響き合う宗教教誨」のもとに開催されました。

基調講演は「矯正の現状について」と題して、法務省矯正局少年矯正課長・山本宏二氏が「矯正を取り巻く変化及び刑法等の一部を改正する」法律等について述べられました。記念講演は、ノンフィクション作家の堀川惠子氏、杏林大学名誉教授の金田一秀穂氏のお二人が「教誨師役割」「心に響く言葉」と題して講演をされ、参加者一同真剣に聴講していました。

今大会は人数制限がなく、教誨師は全国から375名（本教45名、内道内10名）、来賓・矯正施設関係者の大勢が参集して研修に励みました。本教からは、中田善亮表統領先生が来賓としてご出席くださいました。

レセプション終了後は、会場を移動して宗派別の「天理教教誨師懇親会」がもたれ、中田表統領のご臨席を頂き、奥村教区長、婦人会主任ご夫妻参加の中、遠くは、宮崎県からも駆けつけてくれた教内教誨師の方々とお道の教誨師として情報を共有し懇親を深めました。

ようぼく一斉活動日 意見交換会

6月16日（日）第2回目の活動日を終え、各支部の実務担当者による意見交換会を実施した。第1回活動日に続き実施した交換会だが、今回は対面（リモート混合）により12支部の実務担当者が来庁した。13時より15時までの交換会だったが、活動日を終えて間もない事もあり、活発に意見を交わした。第2回目の内容や感想を発表し、動員に向けた工夫や、支部での活動日に対する捉え方についても様々な意見が飛び交った。支部独自のチラシやアンケートを作成したり、第1回目の参加名簿を基に案内ハガキを作成した支部もあった。コロナ禍の後、これだけの参加者が集まったこの活動日を契機に、支部活動の活性化に繋げたい、という意見もあった。

今回は、年代別の集計も取っており、参加者の高齢化に課題を残すところだが、第3回目の活動日に向け、年齢の高い層にも参加しやすいプログラムの作成に取り組んでいきたい、との勇んだ声も聞こえた。

年祭活動も折り返し地点。それぞれの持ち場立場で、この活動日を通じ、おやさまにお喜び頂ける、おたすけの実践に全道心一つに更に勇んで取り組んでいきたい。

（ようぼく一斉活動日 事務局長　三幣敦志）

第2回 ようぼく一斉活動日

札幌東支部

天龍支部

北見支部

よさこいソーラン祭りで海外布教を

6月8日、「やまびこ会」と「札幌東支部布教部」は合同で、よさこいソーラン祭りに訪れる人や海外の観光客をターゲットに国内での海外布教を行った。

長い冬を乗り越え札幌の街が新緑に染まる6月。短い成虫時期を精一杯に鳴く蝉のように、踊り子たちが札幌に集い、北海道の短い夏を楽しんでいる。第33回となる「YOSAKOIソーラン祭り」が行われる大通公園には、国内はもとより、海外からの観光者が多く往来する。

「国内海外布教」を行い、8名の同志が参加して、英語、スペイン語、インドネシア語と日本語を交え、海外来訪者を中心に天理教の御教え、陽気ぐらしの生き方を外国語でお伝えした。

英語で路傍講演

道行く日本人も、海外の言葉に興味の眼差しで聞いていたのが、とても印象的だった。普段は聞きなれた言葉では関心を示さない人も、言葉が変わるだけで関心があがるのかと、海外布教の日本人への反応にも大いに驚いた。

また16日は、定例の布教活動を行い、2人で戸別訪問に歩かせていただいた。

雨の日曜日で、在宅の方が多く、インターホン越しで、お話しすることができた。

次回、定例のやまびこ会は、7月16日13時30分より教務支庁にて。

（代表 藤野充普）

各地の動き

●防災訓練に参加

室蘭支部災害対策委員会

室蘭支部災害対策委員会（秦野聖一郎委員長）は、6月23日室蘭市主催で輪西連合自主防災会共催の防災訓練に6名が参加した。

今後見込まれる有珠山の噴火に備え、訓練を通して人員を把握し招集ならび支援活動の確認と実施を行い、地域のおたすけ活動に役立てるとともに一人ひとりの防災意識を高める事を訓練の目的とした。

また訓練の想定として、「未明の大雨により室蘭市気象管区台から市全域に土砂災害危険情報が発表され、室蘭市災害対策本部は、直ちに輪西地区に避難指示レベル4を発令した。天理教室蘭支部災害対策委員会は、

市民会館で炊き出し準備

事前より支部管内に於いて出動準備命令をかけておいているため、各関係者に召集を伝達。輪西分教会に対策本部を設置し、合わせて避難所運営の支援ならびに炊き出し訓練の支援を行うこととする。」と時間経過と共に訓練を実施した。

訓練内容は、①室蘭市で企画する炊き出し訓練、②一時避難所と室蘭支部災害対策本部設置開設の準備と片付け、避難者の誘導、③室蘭市市民会館（広域避難所）で行われる避難所運営ゲームに参加し、自衛隊の炊き出し及び非常食試食に参加した。ほかにも公園の地下貯水槽から給水設備を設け、非常用飲料水袋に水を入れる作業を行った。

本部月次祭の帰参時期や日曜日とも重なり、支部内の教会長の参加は少なかった。実際、災害は日にちを選ばないので、この様な場合もあり得ると確認する事が出来た。

今回は、すべてLINEで連絡を行ったがその評価を問いたい。今後、災救隊員の高齢化も進むので、今後の対策が急務であると感じた訓練であった。

公園の貯水槽から給水設備へ

非常用飲料水袋へ給水

年祭と日参・親の声

―札幌北西支部長　荒木 志朗―

私は21歳で教会長のお許しを頂き、現在45年になります。この間、「悪性リンパ腫（血液の癌）」を発症し、再発を含めて二度、命を繋いで頂きました。

最初のご守護は23年前、43歳の時、上級當別分教会現会長様の就任奉告祭の旬でした。

ある朝、髭を剃っているとアゴの下にシコリのようなものが出来ているのに気づきました。病院で診察すると、医者は驚いた表情を浮かべて、「直ぐに別の病院を紹介するから」と言いました。机の上の診断書には「悪性リンパ腫の疑い」と書かれていました。その日、国立がんセンターで受診したところ、血液のがんで、「悪性リンパ腫」とのこと。ステージ4の末期で、まさに死の宣告を受けたのです。

入院後、抗がん剤での治療が始まりましたが、抗がん剤の効き目がなく、薬の副作用で苦しみ、体力も気力もなく、ただただ祈るばかりでした。治療を続ける中、上級の奉告祭が近づいていました。いても立ってもいられない気持ちの中「部内教会長として、何としてでも奉告祭のおつとめには出させて頂きたい。もしかすると、上級での最後のおつとめになるかもしれない」との思いでいましたが、体調はなかなか良くなりません。

迎えた就任奉告祭当日、病院に無理矢理外出許可をもらい、妻に連れられて上級教会へ向かいました。抗がん剤で体中の毛が抜け、やせ細った姿でしたが命がけでおつとめを勤めさせていただきました。

ところがこの奉告祭の後、厚生労働省から認可が下りたばかりの新薬での治療に切り替えることになり、これが功を奏しました。これまでとはうって変わって、がんに対する効果が表れました。この薬がタイミングよく認可されたのも、ただの偶然ではないと思います。

入院している間、上級では12下りのお願いづとめを勤めてくださり、その中には大病を患って退院したばかりの方が遠い道のりを歩いて通ってくれていました。上級の奉告祭という旬のおつとめ、毎日のおさづけに、親神様がお働きくだされ、皆さんの真実で奇跡的に命を繋いでいただいたと思います。

ところで私は、上級へ日参して45年。きっかけは、教会長に就任して早々の月次祭に、あるようぼくの方が、ご婦人を連れて参拝に来られた事から始まりました。

その方は両手の指先が変形して、左の膝が曲がらず、一人での歩行も困難な状態でした。当時、21歳の若造の私には、教会の事も、ましてや身上に対する教理の事など全くわからず、月次祭に来られた、当時の上級の会長様が、「志朗にはまだ救ける理がないから、神様に働いて頂くために1ヶ月間當別の教会に日参をして、2人の婦人さんは恵庭の教会に日参をするように」と、言われたのです。

日参が始まり数日経つと、「階段の上り下りも楽になり、痛みも薄れてきました」とのことで、神様の不思議を見せていただき共に喜ばせていただきました。この方のおたすけがご縁で、1ヶ月の日参が、3ヶ月、そして1年、やがて3年、とうとう45年の日参を続ける事になりました。

私の教会から当別町にある當別分教会まで33キロあり、車で約45分かかりますが、当別町は、豪雪地帯で吹雪の日は命がけです。「今日はやめよう」と思った日も幾度もありましたが、そのたびに増井りん先生の「雪の日」の逸話を思い起こしました。そうして上級の朝勤めから、午前中は伏せ込みのひのきしんという日参の毎日の45年間。人だすけから始まったこの日参で、自身のたすかりになったのだと思います。

やがて13年が経ち、2度目の命の危機が訪れました。教祖130年祭の年祭活動の旬、検査の結果がんの再発。病院の待ち合室で、親神様は、私に何をもとめられているのか考えました。いろいろ思案をしていると、大教会長様が、人様のたすかりを願って、大きなお尽くしの心定めをされたことが心に浮かびました。「年祭活動仕上げの年にやることはこれだ。一度死にかけた命これしかない」と、思ったのです。教会に戻り「来年仕上げの年に、1年間のお尽くしの心定めを、1月の春の大祭に、たとえ借りてでも御供させてい

（7Pへ続く）

（↙6Pの続き）

ただきたい」と、申し上げました。

当時おぢばで勤務している長男、関東で保育士をしている長女も冬休みで帰省しており、がんの再発と心定めを伝えました。年明早々、子供達が揃って私たち夫婦の前に来て、「これ、4人から。心定めの御供に。」と、のし袋を渡してくれました。

子供達の立場で出せる精一杯の金額を私のたすかりを願って、心定め達成の上にすぐ実行に移してくれたこの真実に私も家内も思わず胸が一杯になりました。

その後、上級、大教会、ご本部の春季大祭に帰って後、入院し、2月から抗がん剤治療が始まりました。すると担当医から「抗がん剤と相性が良いですね。首、胸部のリンパ節の腫れが半分になりました」とのことで、退院して、外来受診で治療が出来るようになり、3ヵ月で寛解の御守護をいただきました。そして、この度の再発を機に、私の想像もつかない事を親神様・教祖は親心によりお見せ下さいました。

それは当時おぢばで勤務している長男が、仕上げの年から、8日の月次祭に毎月帰って来る心を定めてくれた事。そしてこの度の再発で子供たちが親にたいする心を学び、神様に向き合う事ができたという事です。

親が子供に信仰を伝えるのは、なかなか簡単にはまいりません。17年前の病気の時は子供たちも小さく、神様の思いは理解出来ない年齢でした。この度は、子供達がしっかりと神様をつかめる事となり、親の病気をきっかけに真実を使い、信仰を学んでくれました。

現在、親神様、教祖に命を繋いで頂き、毎日を結構に通らせて頂いています。こうして、多くの不思議なご守護と感謝を経験することができました。この経験から学んだ事は、「日参の有難さ」「上級、親の声に沿わせて頂くことの大切さ」そして「教祖年祭の旬は、私達の為の旬である」という事。教祖140年祭活動2年目、ますます心を引き締めて通らせていただく決意です。

各地の動き

●鼓笛バンド　パレード演奏

6月8日、天龍、旭川、上川、富良野、北見、紋別支部を中心とした少年会員と育成会員から成る鼓笛バンド「天理Niko Niko Dream Band」は、第92回「北海道音楽大行進」に出場した。

旭川の初夏を彩るマーチングの祭典である「北海道音楽大行進」は、市内外から計81団体、総勢約2千800名が出場。当バンドメンバーの住む地域は北海道全域にわたるため、集まっての練習が難しく、Zoomによるオンライン練習が主体であった。

パレードで演奏

当日、メンバーは、こどもおぢばがえりソング『ありがとう！夏のおぢば』を沿道から大勢の観衆が見守る中、初夏の日差しを浴びつつ約1.3㎞のパレードコースにて、堂々と息の合った演奏・演技を披露した。

●ふせこみひのきしん

教務支庁にて毎月29日

廊下掃除

神殿掃除

ゴミ拾い

5月29日は、神殿掃除、2階ロビー、大会議室テーブル拭き、小会議室、3階研修室、廊下、階段、トイレ掃除と庁舎周辺のゴミ拾いを行い13名が参加下さいました。ありがとうございました。

※今後の予定や詳細はこちらのQRコードから

お詫び

教区報599号（6月号）の3ページ紋別支部長の文章の中に誤りがありましたので、訂正致します。

×ひながたの実↓○ひながたの実践

ご迷惑をお掛け致しました事をお詫び申し上げます。

R187アフター&スタート　学生会

教区学生会（齋藤美桜委員長）は、5月19日教務支庁で、187アフター&スタート（Let's begin）を開催し、11名が参加した。

春の学生おぢばがえり（＝春学）後に新たにスタッフとなった学生が加わり、新しい学生も迎えて、新委員長体制での初めての交流行事となった。初参加の学生もすぐに溶け込んで、自己紹介やゲームを楽しんだ。昼食は、ピザパーティで盛り上がり、春学振りかえりムービー後にひのきしんをして、閉会となった。

トークで笑顔に

「初参加でしたが、委員長さんやスタッフさんが温かく迎えてくれて、すぐに楽しい雰囲気に自分も入れました。次回も行事に参加して学生会の友達がたくさん出来たら嬉しいなと思いました。」と参加学生がコメント。

参加者は少なかったが、一人ひとりの距離感を身近にすることができ、参加学生に喜んでもらいたいとの委員長の思いに沿って、取組んでいた姿が印象的であった。行事後にスタッフは、SNSを用い効果的な活動の告知や学生のスケジュール調整を早めにできるように、きめ細やかな行事案内や動員方法についてのねりあいも行った。

新教会長さん紹介

（令和6年5月お運び）

日高支部　平洋分教会（洲本）
奉告祭　7月6日
伊藤 育子 氏
54歳

空知支部　砂川分教会（甲府）
奉告祭　7月15日
小菅 真千子 氏
41歳

十勝支部　河西分教会（雨龍）
奉告祭　6月30日
可児 義孝 氏
40歳

《学生会新委員長紹介》

4月より札幌東支部の齋藤美桜（新潟・新桑園）さんが教区学生会委員長になりました。

齋藤 美桜（さくら）
専門1年

北海道教務支庁日誌抄

6月1日　ようぼく一斉活動日
2日　〃
4日　札幌中南支部例会
8日　よさこいソーラン海外布教
9日　青年会Meets!
北陸大　女子青年
15日　学生会例会
16日　やまびこ会
合唱団 定時練習
ようぼく一斉活動日
実務担当者意見交換会
23日　会計部会議
教区長帰本
ままっぷの集い
24日　三代真柱様十年祭
25日　教区長会議
26日　本部月次祭遥拝式
主事会
27日　教区長帰庁
29日　教務支庁ふせこみひのきしん
災救隊 平時訓練
釧路市阿寒（～7/1）
30日　たすけ推進会議

訃報

立教一八七年・令和6年

- **渡邉　芳晴様**　4月3日出直（75歳）
勢鳳分教会前会長　（渡島支部）
- **秋葉　澄子様**　4月12日出直（81歳）
浦臼分教会前会長夫人　（空知支部）
- **柴田　英子様**　5月19日出直（93歳）
錦之旗分教会前会長夫人（空知支部）
- **菊川　優様**　5月27日出直（91歳）
琵勝分教会長　（十勝支部）

―けいじばん―

◎**法律に関わる諸問題**でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎**毎月26日に本部月次祭遥拝式**を午前10時より行っています。

◎**ホームページ**では、教区報に未掲載の記事や投稿いただき記事も随時掲載しています。また**記事の投稿**もよろしくお願い致します。